

北辰

TOKYO



岐阜県立多治見北高等学校同窓会
東京支部会報 第20号
2006年10月15日

同窓会総会で会いましょう!!

多治見北高等学校同窓会・東京支部 会長 前原金一（2回生）

多治見北高校同窓会 東京支部の皆様には、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

昨年の総会で、愛知紘治会長の後任に選ばれて以来、副会長、理事、年度幹事の皆様と例年のように会合を重ねて、今年度の総会の準備を進めて参りました。

（1）今年度の総会について

小栗副会長のご尽力により、昨年まで会場として便宜を図っていただいた「新宿モノリス29」が、今年から使用出来なくなりました。種々検討の結果、今年は、昭和女子大学（小生の勤務先）の本部館3階の会議室において、総会及び懇親会を開催することとなりました。会場の都合もあり、今年は例年より1週間遅い 11月18日（土）に開催されますので、お間違えのないよう、よろしくお願い致します。

関西支部では、これまでも立命館大学や奈良大学で支部総会を開催したことがありました。東京支部では、大学キャンパス内での総会は初めてのケースとなります。会場は、渋谷近くの都心にありながら、緑豊かなキャンパスです。

母校から来賓として、勝校長先生他、恩師の先生方、本部同窓会より尾関会長、関西支部水野副会長等をお迎えする予定です。幹事年度、7・17・27・37回生の皆様には、ご苦勞をおかけしておりますが、よろしくお願い致します。

（2）懇親ゴルフコンペ開催

かねてより準備を進めてきました第1回懇親ゴルフコンペを、3月11日（土）大宮カントリークラブ みどりコースにおいて、開催することが出来ました。晴天にも恵まれ、大変和やかな1日となりました。これに先立ち、すでに2回の準備コンペを経験した甲斐もあって、4組の参加者で盛会裡に実施することが出来ました。第2回目は、9月9日（土）成田の芝山ゴルフクラブにて、古田副会長が実行委員長となって開催されました。今後も定期的に行ないますので、皆様の参加を期待しています。



（3）50周年記念事業

これまでも度々ご報告しております通り、50周年記念事業の計画が、いよいよ具体化してきました。本部の尾関会長から正式にご要請があると思っておりますが、今回は相当思い切った大型の事業が計画されました。このため、同窓会各位に対しても、多額の寄付が要請される予定です。皆様のご協力をお願い申し上げます。

同窓会の総力を50周年事業に結集を!!

多治見北高等学校同窓会会長 尾関 恵一（2回生）



わが同窓会東京支部の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は、同窓会活動にご理解とご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

わが校は、昭和33年4月に開校し、平成20年3月で、創立50周年を迎えることとなります。その間に、1万5500名もの卒業生が生まれました。そして、卒

業生は日本中で、いや世界中で、各界の一線で活躍中であります。

このような現状の中で、50周年記念事業をどのようにするかについて、本部役員会、本部執行部会などを再三に開いて、検討を重ねてまいりました。そしてこのたび、佐藤宏実行委員長（副会長）の下に、各学年1名の実行委員を選出した実行委員会で、50周年記念事業が決定されました。

その第1は、植栽事業です。この事業は、新本館棟が本年8月に完成したことにより、旧本館棟（現在の正面玄関）が取り壊されるので、その跡地を利用して、自然と共生し、

生徒達が自然の中で集うことのできる「北辰の杜」(ほくしんのもり)を設置することに決定し、この中央にシンボルツリー「北辰の樹」を植え、生徒達が集える「北辰の広場」を設置するという計画です。この「北辰の杜」構想は、数年前からPTA、生徒代表、地域の住民代表などと暖めて来たものであります。この事業が完成すれば、きっと東濃地方を代表するような、素晴らしい学園が出来上がるものと考えています。

その第2は、正門設置事業です。新本館棟の完成を契機として、今までの東門が正門となりましたので、周辺に調和した正門を設置する事業です。

その第3は、クラブハウスの解体及び新築事業です。「部室・更衣室の棟」が老朽化しているのと、車両の進入・駐車場を確保する必要性があり、新本館が完成し、景観上

からも解体し、新築することが望ましいとの結論に達し、現在のクラブハウスを解体して、体育館北側に新築する事業であります。

以上のとおり、事業として決定させていただき、この秋に、同窓会全員に趣意書をご送付し、ご協力をお願いする予定であります。

同窓会の皆様には、多額の寄付をお願いしなければなりません。皆様からいただいた寄付金は、「国または地方公共団体に対する寄付金」として、所得税法上の寄付金免除が受けられるよう手続きをいたしました。

この50周年記念事業は、同窓会の威信と名誉をかけて実行するものでありますので、この事業に同窓会の総力を結集していただきたいと存じます。

自主・自立・自学は永遠に

校長 勝 安喜

去る8月13日北高第19回生の同窓会が200名を越える出席者の参加を得て、多治見市産業文化センターにて盛大に行われました。この同窓会を成功させるために何度も会合を重ね、準備してくれた実行委員会の皆さんに感謝と敬意を表したいと思います。

19回生は私が多治見北高校へ赴任した年に入学し、3年間持ち上がり最初の共通一次試験を受験した生徒たちであり、大変懐かしく楽しい時間を共有することができました。

その会の中である担任の先生が実行委員会のメンバーに対して「校長先生をお願いして高校時代の学籍簿を全員最高ランクに書き直したい」とおっしゃいました。その先生ははるばる鹿児島から参加いただいたわけですが、その生徒のあまりの成長ぶりに感激されての言葉であったであろうと思います。また、同窓会に先立って行った新本館棟の見学会においても、4階の図書館を見学後、「自分は落ち込んだとき、本との出会いによって救われました。どうか本の購入に役立ててください。」と手紙を添えてお金を寄付してくれた生徒にも出会うことができました。



校長室にて

多治見北高校には14年間に在籍させていただき、再度で最後の勤務をさせていただいておりますが北高生のすばらしさは在校時はもちろん、むしろ大学を卒業して社会に出てからの成長と活躍にあると思います。これも北高の校訓である“自主・自律・自学”を生涯の生き方の姿勢として求め、実践しているからであると確信しております。

今回の新本館棟新築を契機として、多治見北高校同窓会は平成20年度に迎える創立50周年記念事業の一環として、“北辰の杜”構想に基づいて校内の環境整備を進めていただけることとなりました。多くの人材を輩出してきたソフト面における環境だけでなく、ハード面における一層の環境整備が整うことはまさに鬼に金棒であります。

生徒の力を最大限に伸ばすことが我々教職員に課せられた課題であることを自覚しつつ、努力して参りたいと思います。これからも後輩たちに力強いメッセージをお送りいただくと共に、ご指導ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。



図書室

北辰祭一年生

1年7組担任 加藤妙子(30回生)

母校へと異動になって今年で4年目となった。今年度初めて1年生の担任を持つことになり、先日、彼らにとっては初めての北辰祭があった。わがクラスは大きな絵を描きながらその前で踊る、というパフォーマンスをすることになった。当日の発表は大成功(と担任は思っている)。体育祭でもHR対抗リレーで1位となり、クラス全員、大満足の北辰祭だった。とはいえ、まだまだ1年生。先輩たちの発表にずいぶんと刺激を受けたようで、来年の北辰祭ではもっとすばらしいものを作り上げてくれるに違いない。

生徒の感想より

・「クラス活動を通して、クラスの人たちと話したり、一緒に考えたりし、コミュニケーションをとる機会が増えたので、とてもいい活動ができたと思う。」

・「はじめは団結しているように見えず、中心となって進めてくれた子に迷惑をかけてしまった。みんなで作る文化祭でなく、一部の人がんばってできた文化祭になってしまいそうだった。もっとはじめからクラスが団結してできると良かった。先輩たちはさすがという出し物ばかりだった。」

・「北辰祭のおかげで今まであまり話すことがなかった人とも話すことができよかったです。体育祭では先輩とも接することがあり、アドバイスをしてくれたりしてよかったです。学年に関係なくみんなが熱くなれて本当に楽し

い3日間でした。」

・「あやふやだったクラスの人の顔と名前を覚えることができた。学校全体の取り組みは正直言ってすごいなあと思った。何をやるにしてもテキパキできっちりとして、当日の先輩たちの公演は見ごたえたっぷりのものだった。」

・「クラス活動はいろいろ問題がありましたが、本番は何とかうまくいってとてもうれしかったです。先輩たちの出し物は、舞台とかダンスとかとても凝っていて、見てて本気ですごいと思いました。文化実行委員の先輩たちもすごい人たちばかりで、尊敬できる人たちでした。今年、去年の北辰祭以上のものを作ったように、来年は今年以上に完成度が高いものになると良いなあと思います。」

・「体育祭はリレーが1位でよかった。あんまりアンカーは面倒でやらなかったけど、アンカーってのも悪くないな~と思いました。」



引き続き、持続可能な地域社会作りに取り組む

多治見市長 西寺雅也(2回生)

昨年、日本全体の人口が減少し始めたという報道がされました。人口減少時代に突入したと言われています。それと平行して地域間の格差が広がり、人をひきつけることのできるのは日本の中でも限られた地域になってきています。それはおそらく東京都市圏に住んでいる人たちには想像しがたいことなのかもしれません。多治見市も一時の人口急増時代が終わり、昨年の国勢調査ではじめて300人ほどですが、人口が減少しました。しかも、「団塊の世代」が多い人口構成になっていますので、いわゆる「2007年問題」が喫緊の課題になっています。

こうした時代を予見しながら、「持続可能な地域社会づくり」を市の最重要課題として施策作りに取り組んできました。これまで役所が抱え込んできた多くの施策も見直し、本来行政が行うべきことを見極め、その自治体に見合う事務事業の量を定めていく作業を進めています。いわば、行政の「持続可能性」そのものが問われている時代でもありません。

こうした時期、全国的規模で市町村合併(平成の大合併)が進められてきましたが、多治見市も3市1町の合併は失敗におわりましたが、今年1月23日隣の笠原町と合併し、

人口11万7千人の新しい多治見市が発足しました。笠原町はモザイクタイルの生産では日本一を誇るタイルの町です。もちろんこれまで2つの市町それぞれが独自の歴史や伝統、文化を育んできましたので、なにかとギクシャクすることは否めませんが、少しでもはやく一体性を育てなければなりませんと思っています。

合併を機に多治見駅周辺の整備もピッチを上げ、多治見駅の橋上駅舎化、南北自由通路の建設もいよいよ工事がかかります。平成22年春には新しい多治見駅が出来上がります。中心市街地の再生という役割を果たすまちづくりもそれとともに進めていくことにしています。帰郷の際にみなさんが「おー」といっていただける玄関になればと思っています。



新本館棟完成

事務部長 山村邦男（6回生）

昨年8月より着工されました新本館棟が本年7月に完成し、8月末には無事竣工式を迎えることができました。

（1）建物規模

鉄筋コンクリート造、4階建（一部4階）延べ面積2,198㎡。駐車場の東側、格技場の前付近に建設されました。1階には校長室、職員室、事務室、保健室、教育相談室、会議室等があります。この会議室は3部屋に仕切ることができ、学習室として利用することも可能です。2階には物理講義室、物理実験室、進路指導室、進路資料室等が、3階には化学講義室、化学実験室、小会議室等があります。4階には図書室、図書閲覧室が配置されています。2階、3階の講義室及び4階図書室の南側には直射日光を和らげるバルコニー、4階の図書室の西側には日除けも兼ねた太陽光発電パネルとデッキスペースを設け、環境デザイン、自然エネルギーの活用を視覚的に表現しました。また、エレベータ1基、正面入口に自動ドア、段差のないフロア、車いすにも対応できる手洗い等を設け、バリアフリーに配慮した造りとなっています。東門付近にありましたケヤキ並木をそのまま残し、正面玄関上部にはステンドグラスを配した心落ち着く建物です。



修道院側から見た新本館棟



南側から見た新校舎



職員室



外壁補修中の北舎

（2）校舎建設まで

校舎新築にあたり、校内に生徒代表、同窓会代表、PTA代表、職員代表からなる委員会を設置し、理想とする校舎像を検討しました。県との数度にわたる検討により、次のコンセプトに基づく設計がなされました。

- ・緑豊かな虎渓山と修道院など周囲の景観を尊重し、既設校舎とも調和のとれた外観、色彩とする。
- ・近隣の住宅や通行人に圧迫感を与えないよう配慮し、道路に近い本館棟東側1スパンを平屋とする。
- ・玄関廻りと1階は地場産業であるタイル張りとする。
- ・全体的にシンプルな外観とする。

（3）外壁改修工事

本館棟の移転に伴い正門も移動することになりました。旧東門を入口専用の正門とし、正面玄関前に出口専用門を設置しました。そのため東側の外壁を撤去し、これまでの位置より1m下がった場所に新たに外壁を建設し、車両と通行人の安全をはかりました。

（4）旧本館棟

旧本館棟は今年度末までにとり壊されます。旧正門は南門として、また、無限像は従来の位置にそのまま残ります。

創立50周年記念事業委員会からのお願い

創立50周年記念事業委員会委員長 佐藤 宏(2回生)

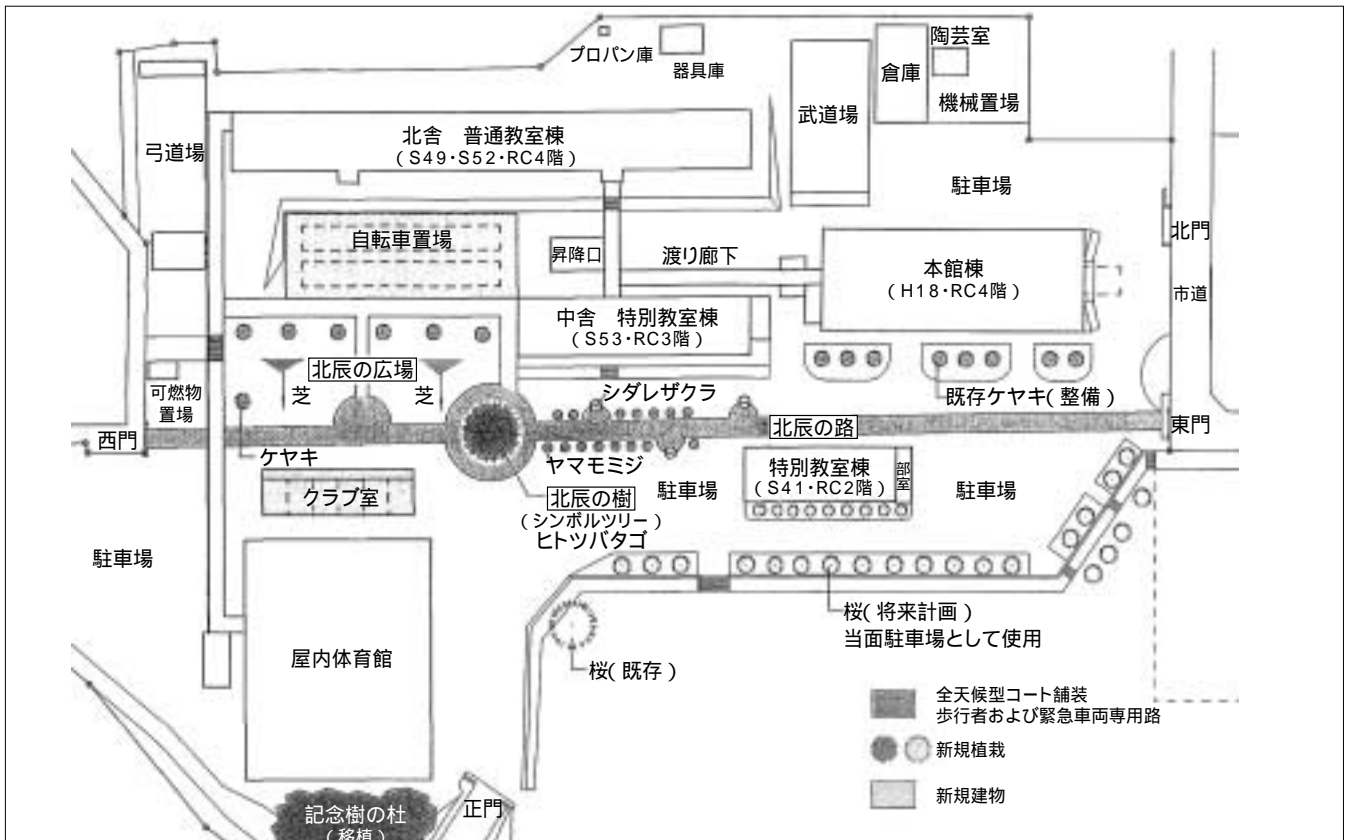
多治見北高同窓会東京支部の皆様方におかれましては、日頃から同窓会活動に格別のご高配を賜り心よりお礼申し上げます。

私たちの母校多治見北高等学校も創立50周年を、2008年に迎えようとしております。その50周年を迎える記念事業として、何がふさわしいのか々と本部委員会及び委員会内で検討してまいりました結果、在校生を対象とした校内整備事業として「北辰の杜」構想案が提出されました。

本年2月の理事総会において承認され、いよいよ第一歩が踏み出されました。まずは、県教育委員会への最終計画案を6月に北高の山村事務部長(6回生)から提出していただき、承認をいただきました。8月には、私と酒井忠造財務委員長(5回生)山村事務部長とで、多治見税務署に寄付の趣意書を持参し、免税処置申請をし、受理されました。よっていよいよ活動の開始となりました。

現在皆様もご存知のとおり、社会情勢の著しい変化の中、多感な高校時代を整備された「北辰の杜」の中で過ごし、しっかりと自分の考えを養い、将来、世界に出て活躍する優れた人材を育成し、世に出したいとの願いを込めて、この事業を是非とも成功させたいと思います。

長引く不況の折りから誠に恐縮ではありますが、どうか私たちの母校の50周年記念事業の趣旨をご理解賜りご協力くださいます様、心よりお願い申し上げます。



趣意書

同窓会会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃は同窓会活動にご協力賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、我々の母校、岐阜県立多治見北高等学校は、昭和33年4月開校以来平成20年には創立50周年を迎えることとなります。この記念すべき年に後輩諸君に、より良い学習環境を整備するとともに、地域に親しんでいただける施設を整備しようと考え同窓会役員会、理事が会議を重ねました。

その結果、次の事業を計画しました。

一、植栽事業

東門(正門)から西門までを見通せる歩道で結び、回りを植樹し緑豊かな虎渓山と修道院と一体となった広場を造るものです。この広場を「北辰の杜」と名付け、生徒達の「憩いの場」「想い出の場」「考える場」を提供しようとするものです。

二、正門設置事業

平成18年7月に新本館が完成しました。この工事に併せ外構工事が実施され、東門が解体されることになりました。

この機会に東門を正門とし、周辺に調和した門柱を含めた門の設置をするものです。

三、クラブハウス解体及び新築事業

現在のクラブハウスは老朽化していること、車輛の進入路の近くにあり危険であることに加え、新本館が完成し景観上からも解体し新築しようとするものです。新築場所は体育館北側に建設予定です。

以上3事業を実施することとし、学校側からも協力を得まして、準備に入っています。これらの諸事業の実施のための資金を、同窓会会員の皆様にご協力を仰ぐことといたしました。皆様におかれましては、趣旨にご理解いただき、応分の寄付を賜りますようお願い申し上げます。なお、整備いたします施設につきましては、整備後岐阜県に寄付することを申し添えます。

【募集要項】

1. 記念事業計画 校内整備計画(上記の通り)
 2. 記念事業資金計画
 - ・ 募集目標 50,000,000円
 - ・ 募集方法 1口10,000円
 - ・ 募集期間 平成18年11月1日から平成19年10月31日まで
 3. 「国又は地方公共団体に対する寄付金」として、個人では1年間の寄付金が5,000円を超える寄付金について所得税法による寄付金控除が受けられます。また、法人については法人税法により寄付金の全額が損金の額に参入されます。
 4. 振り込み先
 - ・ 振込口座 多治見郵便局
 - ・ 預金口座 12480-27111941
 - ・ 口座名義 岐阜県立多治見北高等学校 創立50周年記念事業実行委員会
- 委員長 佐藤 宏

平成17年7月28日

多治見北高での進路講演会

山本康夫（7回生）

7回生の山本です。

昨年10月12日、多治見北高にて全校生徒向け進路講演会の講師をつとめましたので、その概要を生徒の反応を中心にご報告します。

1. 講演会概要

- ・日程：2005年10月12日（水）午後1時30分から午後3時
- ・会場：多治見北高体育館
- ・対象者：多治見北高全生徒（1100名）、教職員、PTA

2. 講演テーマとその骨子

（1）テーマ

私が歩んだこれまでと今 時代・選択・自律

（2）骨子

・それぞれの時代（小中学校、高校、大学、社会人）の背景に触れ、そのなかで自分がどうであったかをコンパクトに紹介しました。

・節目、節目（高校進学、大学進学、就職など）で、何を考えどういう気持ちでどんな選択をしたか、またその選択はその後にどうつながったかを説明しました。

・現在の立場（社会人教育を担当する研修会社に勤務）を通して、「社会人の育成においてもキーワードは自律である」と強調しました。

・全体を貫く軸は、多治見北高への感謝（校風の良さ、とりまく自然環境のすばらしさ、IQとEQをともに伸ばすことのできる環境）です。

3. 生徒の反応

概ね真摯に聞いてくれたように思います。

感想のいくつかをご紹介します。

・社会に出ると、IQはもちろん必要だがそれ以上にEQが大事、ということがわかった。（3年男子）

・決断を先延ばしに今まで来てしまったが、山本さんの「何かを始めるのに遅すぎることはない。」というお話に勇気づけられた。（3年女子）

・自分はまだやりたいことがはっきりせず不安だったが、今回の講演で「確実な道などなく節目節目でベターと



思うことを選択していくことだ。自分のやりたいことも変わっていくことが多い。」と聞き、あせらなくてもよいのだと感じた。（2年男子）

・東濃一すばらしい北高の生徒であるという誇りを持って残る高校生活を充実させていきたい。（2年女子）

・これまで「大」という肩書きや「IQスコア」などをヒトをはかるものさしとしがちであったが、それはほんの一部分でもっと大切なものあることを知った。（1年男子）

・卒業して何十年も経っているのに母校をとて愛し、後輩のためにこのような講演をしてくださるのはすごいことだと思った。（1年女子）

4. おわりに

私は本会報第2号で「北高讃歌」と題して寄稿し、北高とその周りの環境を自慢するため東京生まれの妻やその両親を車で案内したことなどを書きました。

年を重ねるほどに高まる母校愛を、今回このような形で表すことができ嬉しく思います。

機会をつくっていただいた北高の勝校長先生、教職員のみなさま、同窓会東京支部の愛知会長（当時）はじめ役員のみなさまに深く感謝申し上げます。

「東京支部親睦ゴルフコンペ開催」

古田泰明（5回生）

残暑の中にも初秋の気配漂う、去る9月9日（土）に本年度二回目の東京支部親睦ゴルフコンペを開催しました。場所は日本のメインゲート成田空港の南部丘陵地に位置する“芝山ゴルフ倶楽部”。設計者、デズモンド・ミューヘッド独自の個性溢れるレイアウトが満喫出来るという謳い文句に魅せられ？迷幹事が選んだコース、距離は短め、されど

写真は前列左から、古田（幹事5回生）、前原（会長2回生）、加藤（3回生）、後列左から、野津（6回生）、大地（6回生）、伊藤（6回生）、渡辺（5回生）の各氏。



同窓生だより

狭い、巧みに配した水水水に珍プレー(泣)迷プレー続出。

企業決算期末と遠隔地での開催で残念な参加者は7名と極少数ながら、コンペにある特有の緊張感など皆無で、終始和気あいあいの雰囲気の中でのプレー、歓談と有意義な時間を過ごしました。

優勝者は前回の大宮カントリーでの開催と同じく、5回生渡辺圭介氏(G79)、準優勝は前原支部会会長(G94)、2回

生でした。ちなみに渡辺氏、前回のスコアはG70であり、次回からは優勝者の賞金と賞品は少なめにしよう(笑)との意見がチラホラです。還暦を迎えてもその身体運動能力と技術の高さは驚嘆に値します。

コンペは今後も定期開催しますので多数の参加をお待ちしております。若年層並びに女性の方も是非奮って参加ください。

東京支部だより

第16回総会・懇親会のご報告

昨年11月12日(土)、第16回の総会・懇親会を新宿「モ29」で開催致しました。当日は来賓を含め86名の出席者で、6回生の幹事さんのご努力により盛会でした。

総会では会則の変更(名簿の不発行、副会長の定員を3名から3名以上9名以内、年会費の引き下げ)を決議し、新たに会長、副会長の選出を行いました。新会長には2回生の前原金一氏が、副会長には小栗英夫(2)、古田泰明(5)、山本康夫(7)、原田英明(12)、鈴木清二(13)、川人康代(17)の6氏が選ばれ今後3年間担当して頂くことになりました。

恒例のフォーラムでは長瀬博さん(6回生、北里大学薬学部教授)が「薬は病を治せるか?(病は気から)」という題で講演をされました。病気は薬で直接治すのではなく、薬によって免疫力を高め自然治癒力で直すものである。今までは脳の働きと免疫の働きは別々だと考えられてきたが、脳の働きと免疫とは密接な関係があり、気持ちようが重要だとのことでした。

当日の来賓は勝安喜校長、現役の渡辺正司先生(11回生)、恩師の鈴木郁雄先生、加藤昭二先生、松田嘉久先生、本部

同窓会から尾関恵一会長(2回生)、加藤誠治副会長(7回生)、関西支部から吉田美喜夫会長(8回生)の方々でした。勝校長のお話では9月21日に新校舎の起工式が行われ建設が始まったとの報告がありました。また尾関会長からは、本部同窓会としては新校舎の完成と創立50周年を記念して何らかの記念事業を考えており、その際は卒業生各位の協力をお願いしたいとの挨拶がありました。

懇親会では今春卒業の7名の出席者を含めあちこちで団樂の輪が広がり、楽しいひと時を過ごすことができました。



東京支部ホームページの運用について

本ホームページは、従来、6回生の大地さんのご好意で開設していたものを支部理事会で運営する事として、本年度からスタートしております。

主たる行事である年に一度の〔総会〕の掲示を中心に、数回/年行われる理事会の議事録、有志によるゴルフ会、また、同窓生の近況(ニュース)などを掲載しております。そして同窓生の中には、自身のホームページを持っている方もおられ、リンクを希望される限り、こちらに掲載してまいります。

本来の目的は、同窓会(総会)への出席者数の拡大と、参加の少ない年代(20回生以降)の方への情報提供に従来の手紙による方法だけでなく、特に若い年代に日常化しているインターネットを利用した情報提供を行うことで、同窓会への理解を深めていただき、身近な組織として参加していただきたく、構築しております。

一度ご覧頂き、ご意見などを投書していただけるとありがたいです。

<http://www.tajimikita-tyo.com/index.html>



第17回東京支部総会・懇親会のご案内

会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は支部運営にご協力頂き御礼申し上げます。さて、本年も東京支部懇親会を下記の通り開催する運びとなりました。ご多用中のこととは存じますが同期の方々とお誘い合わせのうえ、是非ご出席くださるようご案内申し上げます。

多治見北高同窓会東京支部総会実行委員会（7、17、27、37回生）

記

日時：平成18年11月18日（土曜日）午後3時～7時45分（2時30分開場）

会場：昭和女子大学 本部館3階 電話 03（3411）5244（内線1301）（当日のみ）

総会・フォーラム：中会議室 懇親会：大会議室 なお、会場までの道筋は、案内図をご覧ください。

<プログラム>

- ・受付開始：午後2：30
- ・総会：午後3：00～3：30（於：中会議室） 議長選出、活動報告、会計報告、新役員選出、その他
- ・フォーラム：午後3：30～4：30（於：中会議室）

演題：「投資?!のミステリー」～または、どうして私は損をする？

講師：鈴木 一夫（17回生）日興コーディアルグループ（株）シンプレクス・インベストメント・アドバイザーズ 常勤監査役
雨二モ負ケズ、風二モ負ケズ、利上げにもテロにもめげぬタフな神経を持ち、けっして焦らず、いつも静かに損をしている...
一日に「東洋経済」と「ダイヤモンド」と朝夕の日経を欠かさず読み、あらゆるリスクを想定に入れ、欲はなく、よく見聞きしわかり、そして、やっぱり損をしている...

そんなあなたと、そんな私が、不可解にして不条理極まる「投資」の世界を、哲学的かつ論理的、文学的かつ美学的、空想的かつ科学的、唯物的かつ唯心的、自嘲的かつ懐疑的、大胆不敵かつ小心翼翼に語り倒してみましようよという、空前絶後の30分です。足りるのだろうか、時間は？

長銀出身、今なお前線にて「地雷」を踏み続ける、現役のファンド運用会社監査役がご案内する、マネーの深海へのラジカル・ヒステリー・ツアー によこそ！

演題：「髪は生きている？ 長～い友達！」（知って得する弱酸性美容法）

講師：安藤 敏弘（17回生）NPO法人日本弱酸性美容協会常務理事 山崎伊久江美容研究会本部講師

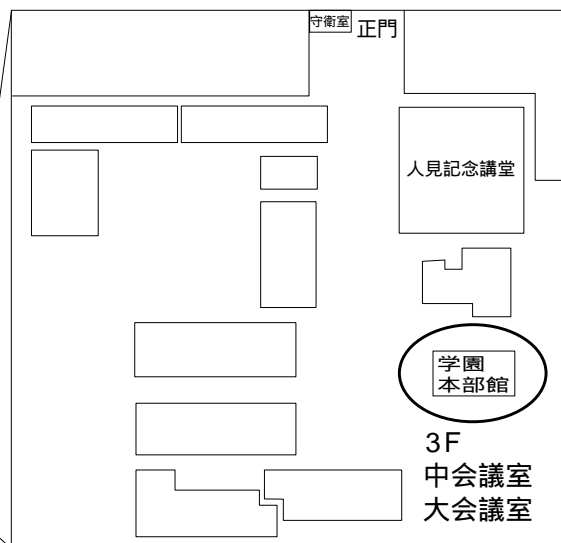
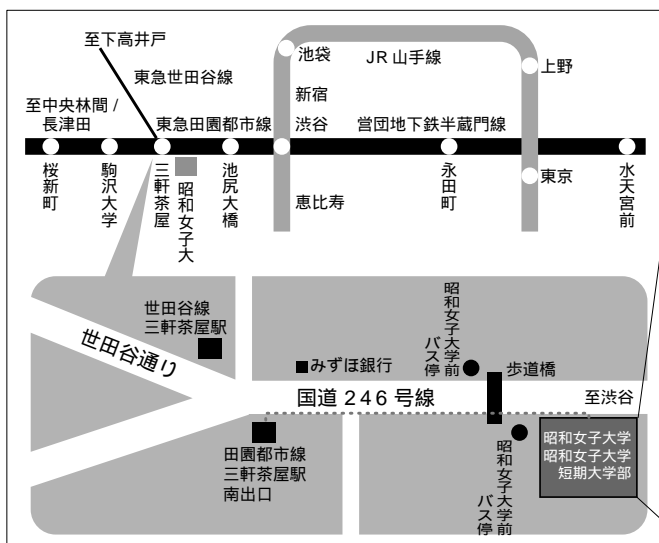
世の中には間違いだらけの美容法に惑わされている方が非常に多いです。そんな方々に、正しい美容法を見分ける目を持って頂きたい。このフォーラムが皆様のお役にたてば幸いです。

女性の方は、いつまでも若く、美しくありたい。 男性の方は、いつまでもふさふさの髪でありたい。 誰もがそのように望んでいます。髪の悩みのある方大集合!! 正しいヘアケア法を行えば、あなたは変わる。

・懇親会：午後5：00～7：30（於：大会議室）

・懇親会費：一般6,000円 学生1,000円（新卒業生は無料） 年会費：一般2,000円 学生0円

会場へのアクセス



編集委員 小栗英夫（2回生） 原田英明（12回生） 鈴木清二（13回生）

<ホームページアドレス> <http://www.tajimikita-tyo.com/> <メールアドレス> support@tajimikita-tyo.com